

【I コリント人への手紙 6章】

「神は主をよみがえらしましたが、その御力によって、
私たちをもよみがえらせてくださいます。あなたがたのからだは
キリストの体の一部であることを、知らないのですか。」

I コリント6：14、15

教会の成長過程において直面する様々な問題を、パウロの手紙を通して教えられています。分裂、不品行、信者間の訴訟、結婚問題、、、そして11章では霊の賜物のことも出てきます。

コリントは交通の要所となり、重要な都市で、競技大会ではオリンピアについて人気を集めたといえます。そのような中に偶像礼拝も盛んで、街の丘のアクロ・コリントの頂上に神殿があり、この女神に使える巫女は、神殿売春婦でした。このようなことが当たり前になり、“コリント人のように振舞う”というのは、不品行を行うことを意味したほどです。日本にキリスト教が伝えられた時も、僧や武士の間に流行っていた男色や、「姦淫するな」さえなければ、良いのにと言われていたほど、偶像礼拝と不品行には何らかの関わりがあったのです。(日本キリスト教史上p.23p.47など) 世の終りには不法がはびこり、愛が冷えてきますが、不品行が当たり前のように行われて、道徳が益々乱れて来ています。

このような中に、パウロは、**私たちの体は、イエス様をよみがえらせたその力によって、私たちも死からよみがえらせてくださり、キリストの体の一部とされているので、不品行を行なってはいけなことを語っています。**代価を支払って、買い取られた体だからです。「私の目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している。」イザヤ43:4

昨年7月にギリシャ・パトモスチームに参加し、コリントにおいて霊の戦いをしました。“汚れたものを捨てる”ことによって、聖霊の働きはさらに顕著に表れて、癒し、奇跡、救い、解放がさらに起こってくるでしょう。

我が家でも1月に家族親族会があって、一人一人近況報告をなしていましたが、その中で“整理する・離てる”ということを始めたら、本当に身も心も身軽になって、今までいかに無駄なものに囲まれて生きてきたのかと思った。」というようなことを話している人が、多くの賛同を得ていました。物に対する執着心を捨てて身の周りをきれいにするというだけではなく、心もストレスから解放されてスッキリするという、非常に語りかけの多い言葉ですね。また、他の方は、“捨てるものを選ぶのではなく、残すものを選ぶ。”といい、ときめくものだけを残すといっておられます。まさに私たちこそ、心の中にある“偶像、不品行”を断ち、悪しきものを捨て、愛する主の視線を重視する生き方へ移ってこそ、初めて神の宮としてふさわしくなるでしょう。

12節～すべてのことが私には許されたことです。しかし全てが益になるわけではありません。と書かれています。もはや私たちの体は自分自身のものではなく、我が内に内住される**聖霊の宮**です。きよいキリストのみ体の一部とされています。この体を持って、神の栄光をさらに現していきましょう！

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the **F**irstborn who are **R**egistered in **H**eaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大衛

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2012.1.29 No.668

今年のみ言葉 歴代誌Ⅱ 20:22

**我らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、
主は伏兵を設けて～彼らは打ち負かされた。**

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。
私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

Iヨハネ5:4



コリントでの礼拝 2011年7月

弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。使徒13:52

主の十字架クリスチャンセンター (TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>